

抗がん剤治療の目的 (固形がん)

延命

症状緩和

ただし、患者さんは抗がん剤に期待していることも理解するべき

治らないのに なぜ副作用のある 抗がん剤をするのか？

がんが
縮小する

がんの進行を
遅らせる

QOL
の改善

症状
の改善

生活を脅かす症状が
あらわれる時期を
先送りする

重要な抗がん剤治療の目標

しかし 抗がん剤治療は

- ある時点からは延命ではなく、**縮命**に
- 縮命は、単に命を縮めるだけではなく、
生きている喜びや楽しみを奪い、肉体的、精神的苦痛を増やす

抗がん剤が効く人、効かない人
長尾和宏（PHP新書）

トレーニングされた腫瘍内科医は

患者さんの状況を見て、

抗がん剤治療の **利益 < 不利益**

と判断された場合

無理をして抗がん剤治療を
すすめるようなことはしません

PS不良例へののがん薬物療法

ホスピスケアが適格な患者に化学療法を行っても、生存期間が延長することはなく、短縮する可能性がある

化学療法を受けずにホスピスケアを受けた患者と、ホスピスケアを受けずに化学療法を受けた患者をマッチさせて比較した大規模な試験

(Connor 2007 J Pain Symptom Manage)

肺がんと膵臓がん

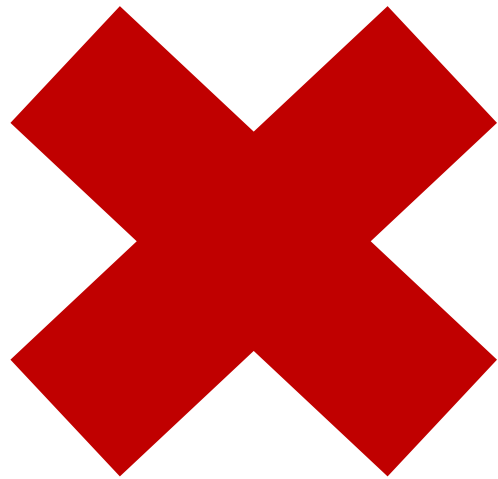
→ホスピスケア群の生存期間が有意に長かった

(結腸癌ではわずかに長く、乳癌と前立腺癌では有意差が認められなかった)

「やれることはすべてやる」 からの変化

- 時代は変化し、求められるものが多様化している
- 「やれることはすべてやる」が最善かについて患者も医療者ももう一度考えてみる必要がある

誤 解



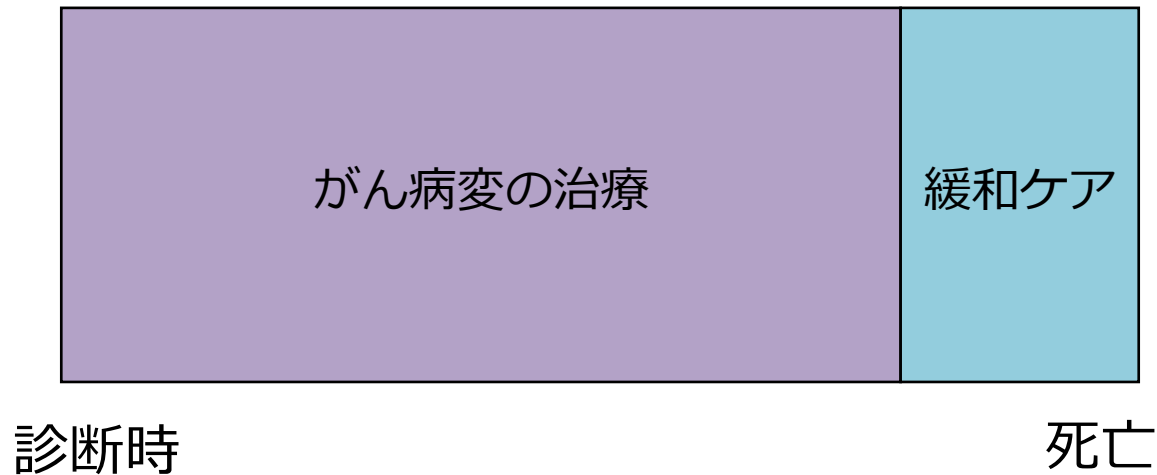
がん薬物療法 = 希望

緩和ケア = 絶望

抗がん剤治療の効果

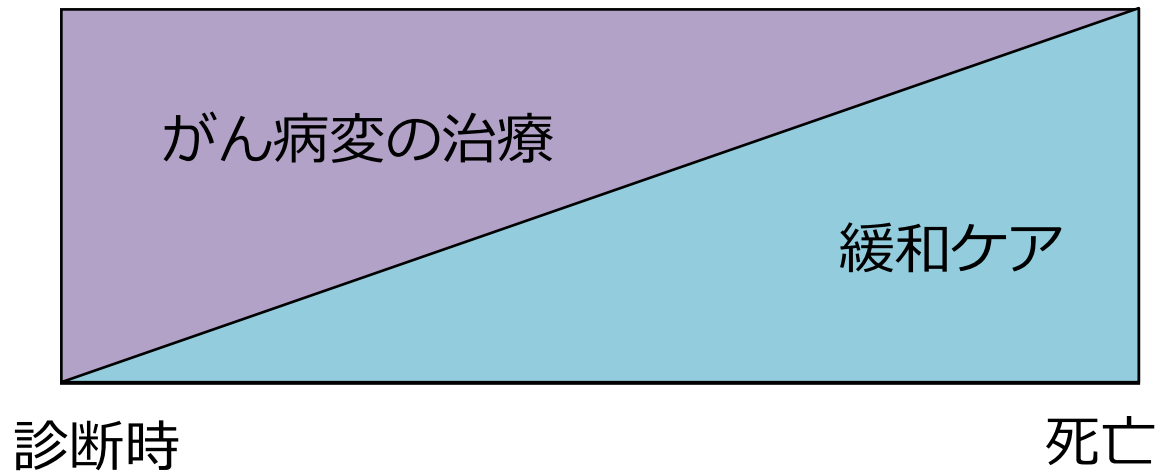
- 今ある**症状の緩和**
- これから予想される**症状の予防**
- その結果として、**自分らしく、1日でも長く生きる**ことを可能にする。
- 残された人生に対する「**安心**」や「**納得**」をサポートする

従来のがん医療のモデル



世界保健機関; 武田文和・訳. がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア
ーがん患者の生命のよき支援のためにー(1993)

包括的がん医療モデル



世界保健機関; 武田文和・訳. がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア
ーがん患者の生命のよき支援のためにー(1993)

緩和ケアは日常診療である

緩和ケアを基本治療として

導入しておき

がん薬物療法をそこに重ね

ることを考慮すべき

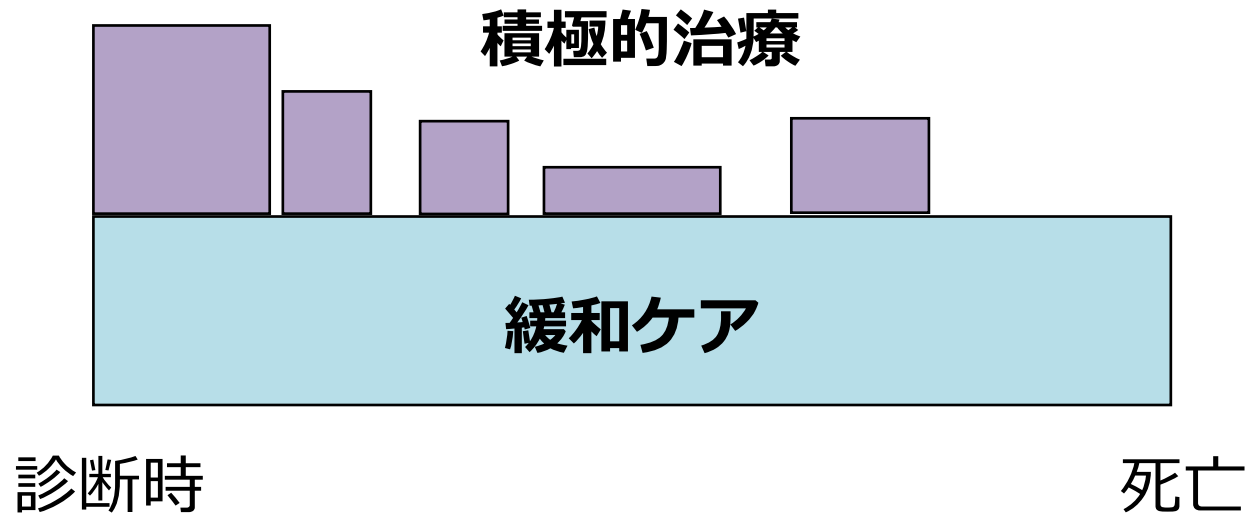
緩和ケアは日常診療である

がん薬物療法での根治の可能性が極端に低く、その目標が延命や症状緩和である以上、

がん薬物療法は

広義で緩和ケアの一環である

究極のイメージ



緩和ケアは医療そのもの

- 最初から普通にある医療が緩和ケア
- 緩和ケアの「導入」「早期からの・・・」という言葉がおかしい

緩和ケアは、

日々の医療そのものである